

小山市立生涯学習センターという施設で期待される地域づくりにつながる学びについての市民ニーズの掘り起こし・見える化を行うには

地域名：栃木県小山市

地域パートナー：小山市教育委員会生涯学習課
生涯学習係

グループ指導教員：白石智子

13班 コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科

古山裕崇 三井大輝 峯村柚美
辻村航生 代永あかり
寺島英紀 若山晴瀬



1. 背景

小山市立生涯学習センターは、小山市の生涯学習の中心施設として市内の公民館や民間施設と共に市民が学び、集う場として運営されていた。しかし、住民ニーズの変化や社会情勢の変化などの要因により施設に求められるものは変化している。利用者数と稼働率は年々減少傾向にある。特に将来の社会を担う人材としての成長が期待される**若者・学生による利用が停滞している**ということは早急に改善を要する課題である。また、地域からも「これからの日本や小山市を担う人材を育てていきたい」という声が高まってきている。

このことからまずは「若者・学生」を第一のターゲットとして改善策を実施するべきであると我々は判断した。

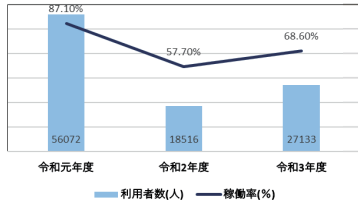


図1 センターの利用者数と稼働率
(小山市立生涯学習センターの在り方に関する基本理念より作成)



2. 目的

若者は、これからの小山市・日本を背負って立つ可能性のある存在であるため、学校教育以外の学びを提供できる場である小山市生涯学習センターにおける若者の利用を増やすことで、将来の小山市やその他の地域がよいものになる可能性がある。そのため、我々は当施設の若者の利用を促進するための提案を行う。

3. 方法

1. 現地調査

生涯学習フォーラムに参加し、他の参加者や市の関係者との意見交換を行い、現状の課題を把握

2. アンケート調査のための事前準備

- ①小山市に住んでいる高校生への電話取材
- ②高校生まちづくりプロジェクトに参加している生徒へのヒアリング調査

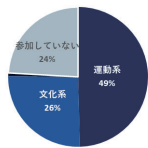
3. アンケート調査

対象：小山高校・小山城南高校に在籍する1, 2年生(回答数**734**)
形式：Googleform、紙媒体でのアンケート
内容：センターの認知度、高校生の興味関心・ニーズについて

4. 分析結果

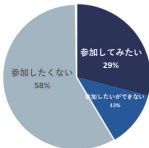
○アンケート調査の結果

Q.部活動等に参加していますか



何らかの**部活に参加している**生徒が多いことがわかる

Q.学校外の活動に参加したいですか



学校外の活動に参加してみたい人は約40%と**半数近く**の生徒が**学外の課外活動に興味**を示している

○高校生の声



センターについて知る**機会がない**



参加できる時間がない

そもそもセンターの場所や何ができるのかを**知らない人が多い**また、部活動などで**時間がなく**、参加することが難しい人も多くいる

それでも学校外の活動に参加してみたい人は**半数近く**と多い

まずはセンターについて知ってもらう必要がある
時間がない人でも参加できる単発のイベントを増やす必要がある

5. 提案

①生涯学習センターの発信

○新高校1年生にセンターを周知するためのチラシを配布する

・高校生になりたての新一年生にチラシを配布することによって利用しやすい施設として小山市立生涯学習センターのことを認知してもらう。

○おーパスに広告を出す

・通学での高校生の利用が見込まれる場所に積極的にアピールする。
・パスは日常的に目に触れるため単純接触効果により認知度の向上が期待できる。

○ロブレビルに広告を掲載

・ロブレビルの低層階の利用者にアピールすることによって立ち寄ってもらえる生涯学習センターを目指す。

②現体制の改善

○手続きの簡素化

・オンライン手続きの推進やセンター以外でも利用手続きをしやすい環境を構築する。
・また、小山開運未来塾についても高校生が利用カードの登録をしやすいようにセンター以外で登録することができる機会を設ける。

○照明・装飾の雰囲気

・床や壁など暖色系に変えたり、デザイン性の高いものに変える。
・センターの各所にお花などの植物を飾ったり、入口の照明を彩度の高いものに変えたり、色を変えてみる。
・「小山市立生涯学習センター」という名前だと硬い印象になるため、あだ名や略称のようなものを用意し、入口に看板等を作ることで、親しみやすくする。

③ニーズに合わせた企画

○自主企画講座

・自主企画講座によって自由な発想をしてもらい、ニッチなニーズを拾い上げる。

○時間がない中でも参加できる単発のイベント

・部活動や勉強に忙しい高校生でも参加しやすいイベントで利用の糸口にする。

○部活での利用

・運動部に向けては、競技における戦術や体づくりに関するイベントを開催する。
・文化部に向けては、発表会等の練習の場としてのセンターを利用してもらう。

○ニーズに合わせたイベントの開催

・ゲーム→ボードゲーム大会・テレビゲーム大会・eスポーツ世界大会のパブリックビューイング
・音楽→学生主導の音楽フェスの開催(イベント運営ともつながる可能性あり)
・ボランティア→ゴミ拾い・幼稚園生と遊ぶ(子ども支援ともつながる可能性あり)